

平成30年度第1回栃木県行政改革推進委員会会議結果の概要

○日時：平成30（2018）年7月6日（金）13時30分～14時40分

○会場：栃木県公館中会議室

○出席者：安藤委員、岩見委員、岡本委員、加藤委員、鈴木委員、高橋（和）委員、高橋（文）委員、中村委員、船山委員、三関委員、谷田部委員、吉田委員

〔県〕金田経営管理部長、小竹総合政策部次長兼総合政策課長、阿久澤経営管理部次長兼人事課長、仲山財政課長、伊東行政改革推進室長、小池行政改革推進室室長補佐

1 経営管理部長あいさつ

当委員会については、県の行財政改革について委員の皆様から様々な御意見をいただいているが、今般、委員任期の満了に伴う改選により、13名のうち7名の方に新たに就任いただくとともに、6名の方には引き続きお引き受けいただくこととなり、御礼申し上げます。3年間の任期となるが、様々な立場から御意見をいただけるようお願いしたい。

今回は改選後初めての委員会となるため、会長選出をお願いするとともに、行革プラン2016の推進状況について報告させていただいた後に御意見をいただきたいと考えている。

さて、県の行財政改革の取組状況であるが、平成6（1994）年度から行革大綱の第1期がスタートし、現在第6期の取組となっている。当初の取組は県の業務や組織の合理化・スリム化がメインテーマであったが、地方分権の推進や行政の透明性の確保などのテーマに重点が置かれ、現在の取組に繋がっている。

特に透明性の確保に関しては、現在、国において公文書の管理や情報公開、意思決定のプロセスのあり方等、様々な問題が提起をされている状況である。県としてはこれまで適正に取り組んできたが、再度、点検しながら県民への説明責任をはじめ、情報公開や公文書の管理について徹底を図りたいと考えている。

また、少子化に伴い人材の確保が困難な状況の中、より少ない職員で効率よく仕事をしていくとともに、長時間労働を是正する「働き方改革」が今後のテーマになると考えており、こうした観点からも様々な御意見をいただければありがたい。

2 会長選出

委員の互選により、中村祐司委員が会長に選出された。

3 会長あいさつ

最近の行政改革は以前とは性格が異なっており、行政に対する批判から行政の後押しをする、一緒になって取り組むという形になっていると感じる。

一方で、国においては公文書の管理等の問題が生じており、地方行政の信頼にも影響を及ぼす状況となっていると考える。

こうした中で県においては、派手なパフォーマンスはないがコツコツと地道な取組を長年にわたり積み上げてきており、今後もこうした取組を継続するために当委員会においてもしっかりと議論をしていきたいと考えているので、委員の皆様から忌憚のない御意見をお願いしたい。

4 会長代理指名

会長から岡本篤典委員が会長代理に指名された。

5 議事

(1) とちぎ行革プラン2016の推進状況について

－事務局から資料1-1、1-2、2、3、4により説明し、意見交換等を行った。－

○委員

資料1-1には全ての「数値目標・実施時期設定取組」に係る目標の記載があるが、資料1-2には記載がないものがあり、見せ方の観点から少し工夫が必要と考える。

○県

資料1-1については達成した取組も含め記載しているが、資料1-2は現在進行管理している取組について経年的に横展開をしたものであり、それぞれ作りが異なっている。今後、御意見を踏まえ工夫できるよう検討したい。

○委員

「順調」、「概ね順調」、「やや不十分」の評価基準について教えていただきたい。

○県

「順調」は達成したもの、「概ね順調」は一定程度進捗のあったもの、「やや不十分」は進捗が図られなかったもので、それぞれ個別に評価をさせていただいている。

○会長

「順調」、「概ね順調」の判断について具体例をあげて説明をお願いしたい。

○県

例えば、4ページの「No.21公共施設等の総合的・計画的な管理」において、「2016年度中に総合管理計画策定」という目標を掲げているが、本体の計画は策定済ではあるが個別施設計画は3計画が未策定のため、概ね順調と評価し引き続き進捗管理を行うこととした。

○委員

1ページの「No.5 県政への県民意見の反映」の「とちぎ元気フォーラム」への参加について、参加者数を増やすことにより目標とするところは何か教えていただきたい。周知度の向上、参加者が新たな取組をはじめた、満足したなど。

○県

フォーラムについては、県内各地において多様な意見を聴取する広聴事業であり、いただいた御意見を県政に反映していくことを目標としている。

○委員

7ページにおいて「数値目標・実施時期が設定されている取組」として21項目を評価しているが、これらは数値目標等が設定された「取組」の評価ではなく設定された「もの」の評価である。1つの「取組」の中に複数の数値目標等が設定されている「もの」もあり、表現の仕方を工夫する必要があると考える。記載のとおり表現とした場合、1つの「取組」の中に複数の数値目標等が設定された「もの」を集約してカウントする必要がある。

また、数値目標等が設定されていない「もの」は概ね順調と考えられるが、こうした「もの」も含めて37取組がどうだったのか評価するとともに、このうち数値目標等が設定

された「もの」についてはどうだったのか記載し、プラン全体としてどうだったのかという構成にすべきと考える。

○県

今回は数値目標等が設定されていない項目についても極力数値を入れて進捗状況をお示しさせていただいたが、次年度以降、構成も含めて検討させていただきたい。

○委員

1 ページの「No.6 県政情報の積極的な発信」における県ホームページの累計のアクセス件数は、年代別なのか全ての年代なのか教えていただきたい。

○県

アクセスの相手方の年齢や階層までは調べていない。

○委員

実績のほか、30（2018）年度以降の取組の記載があるが、これからどうなるのかというところが重要と考える。例えば、1 ページの「No.4 多様な主体との連携・協働の推進」において「大学コンソーシアムとちぎ」との連携の記載があるが、30（2018）年度以降の継続、さらに31（2019）年度へどうステップアップしていくのか重要である。具体的な取組は「事業の実施」という言葉に包含されていると考えるが、こうした取組を継続する中でPDCAサイクルが生まれてくるとさらに効果的な取組となるため、引き続き連携を進めていただきたい。

○会長

スペースに限りはあるが、もう少し具体的に書き込めるように工夫できればということか。

○委員

はい、可能な範囲で工夫いただきたい。

○委員

指定管理者制度について、今回示していただいた運用の見直しにより、応募件数が増えることを期待している。今年度は多くの施設で手続きが行われるため、その結果を後ほど伺いたい。

○委員

5 ページの「No.26 効果的な行政評価等の実施」において、15 戦略のKPIをどのように見直したのか教えていただきたい。

○県

実績が目標を上回った、国の制度変更があったこと等を踏まえ、昨年度6つの目標の見直しを実施した。具体的には、実績が上回ったものとして農産物の輸出額や観光消費額等、また制度変更に伴うものとして障害者の雇用率について見直した。

(2) その他（意見交換）

○委員

行革プラン2016を見ても具体的にどのような取組なのか分からないところがあるため、プランの策定経過などを教えていただきたい。

○会長

後ほど事務局から資料提供等、回答いただきたい。

○委員

「働き方改革プロジェクト」における「とちぎスイッチ！」の実績について教えていただきたい。

○県

昨年度は7、8月に20時退庁に取り組んだが、短期間の取組であったため、その時期だけ退庁時間を守り仕事を先送りしてしまったという反省を踏まえ、今年度は、仕事の効率化もセットで取り組んでいる。「スイッチ！2」については、5月からのスタートでまだ2ヶ月間の取組ため、実績をお示しできるのは先になると考える。今のところ22時を超過した所属はいくつかあり、所属長からヒアリングを行う等の対応をしているところであるが、まずは順調な滑り出しと考えている。

○委員

資料1-2の1ページの「No.5 県政への県民意見の反映」の「とちぎ元気フォーラム」の参加者累計について、今後、男女別の人数の掲載を検討いただきたい。